

## さといもの選別施設利用効果の検証

### 要約

収穫したさといも 1840kg/10a を上都賀農業協同組合が運営するさといもの選別施設を利用することで、23,000 円の手数料がかかるものの、1 時間当たりの所得は 115 円向上することができた。今後、機械導入による規模拡大にも選別施設の利用は欠かすことができない。

### ○ 展示のねらい

露地野菜を大規模に導入するには、主要な作業の定植や収穫、防除を機械化し、省力的に行う必要がある。中でもさといもは収穫調整作業に労働時間が多くかかるため、選別施設の利用は規模拡大を図る上で必要となる。そこで選別施設利用による省力・低コストの効果を検証する。

### ○ 主な成果

選別施設を利用すると出荷調整にかかる時間は 6 時間となり、手選別に比べて 40 時間短縮される。選別施設を利用すると 1kg 当たり 12.5 円の手数料がかかり 10a 当たりの出荷経費は手選別に比べて 20,000 円高くなるが、1 時間当たりの所得は 115 円増加した(表 1)。

表 1 選別施設利用と手選別の10aあたり出荷調整時間と所得比較

|      | 総出荷量<br>※ 1 | 粗収益<br>※ 2 | 出荷経費※ 3<br>(総経営費)     | 所得※ 4<br>(率)        | 出荷調整時間※5<br>(総労働時間) | 時間当たり所得 |
|------|-------------|------------|-----------------------|---------------------|---------------------|---------|
| 選別施設 | 1,840kg     | 368,000円   | 23,000円<br>(183,632円) | 184,368円<br>(50.1%) | 6時間<br>(168時間)      | 1,097円  |
| 手選別  |             |            | 3,000円<br>(163,632円)  | 204,368円<br>(55.5%) | 46時間<br>(208時間)     | 982円    |
| 比較増減 |             |            | +20,000円              | -20,000円            | -40時間               | +115円   |

※ 1 供試ほ場の総出荷量は92コンテナ、1,840kg。次年度の種芋分は除かなかった。

※ 2 粗収益は、過去 5 年の出荷実績から、キロ単価200円で試算

※ 3 「経営費＝粗収益－所得」として算出

※ 4 経営診断指標（平成20年度）より、選別施設利用の所得率を50.1%で試算

※ 5 経営診断指標（平成20年度）より、選別施設利用の労働時間を168時間とした。

### ○ 今後の方向性

さといも栽培は、重量があり埃で汚れるため敬遠されやすい。選別施設の利用だけでは無く、栽培管理を機械化して、重労働を減らし、栽培面積を増やすことが、産地活性化につながると思う。また、今回は 10a 規模で時間当たりの労働時間を試算したが、機械化を推進するに当たっては、費用対効果を十分に検証する必要がある。

さといも栽培で最も労働時間を必要とする子芋分離について、分離機の利用効果も今後検討していく必要がある。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：鹿沼市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315